

消 防 団

## 消防団の沿革

明治22年	4月	貝塚町消防組発足（町制施行により）
明治23年		島村消防組発足
大正元年		麻生郷村・木島村消防組発足
大正7年		西葛城村消防組発足
大正12年		南近義村消防組発足・北近義村消防組発足
昭和6年	4月	貝塚町・麻生郷村・島村・南近義村・北近義村が合併、貝塚町となる
昭和7年	7月	大阪府令第49号により、新たに貝塚町消防組を次の通り編成 第1部 25人 第4部 25人 第2部 25人 第5部 25人 第3部 25人
昭和10年	4月	木島村編入に伴い2部増設7部となる
昭和12年		1部増設し8部となる 1部15人とし、計120人とした
昭和14年		貝塚町消防組に西葛城村消防組編入
昭和14年	4月	警防団令発令により貝塚町消防組廃止、貝塚警防団を次の通り結成 第1分団 北校区 第2分団 東校区 第3分団 南校区 第4分団 西校区 第5分団 木島校区 第6分団 葛城・蕎原校区
昭和22年	4月	勅令第185号により貝塚警防団を廃止し貝塚市消防団発足 （6個分団8個班を編成、定数215人）
昭和22年	9月	貝塚市消防団設置条例制定 消防団員定数362人
昭和23年	3月	第2分団の手曳ガソリン班を第7分団（麻生中）、第5分団の手曳ガソリン班を第8分団（三ツ松）として分設
昭和27年	7月	第9分団（津田）増設
昭和30年	3月	大阪府知事より表彰旗を受章
昭和32年	2月	日本消防協会長より表彰旗を受章
昭和33年	3月	国家消防本部長より竿頭綬を受章
昭和38年	10月	第7回大阪府消防操法訓練大会ポンプ車操法の部で第6分団優勝
昭和39年	3月	消防庁長官より表彰旗を受章
昭和54年	10月	第23回大阪府消防操法訓練大会ポンプ車操法の部で第5分団第3位
昭和56年	3月	消防団員定数を250人に条例改正
昭和58年	2月	日本消防協会長より竿頭綬を受章
平成2年	9月	第34回大阪府消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部で第3分団第2位
平成3年	3月	大阪府消防協会長より表彰旗を受章
平成5年	3月	大阪府知事より表彰旗を受章
平成7年	3月	大阪府消防協会長より竿頭綬を受章
平成8年	2月	日本消防協会長より竿頭綬を受章
平成14年	2月	日本消防協会長より表彰旗を受章
平成16年	9月	第48回大阪府消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部で第8分団第3位
平成21年	7月	「大阪の消防大賞」受賞

平成25年 2月	日本消防協会長より竿頭綬を受章
平成28年 3月	消防庁長官より竿頭綬を受章
平成28年 7月	「大阪の消防大賞」受賞

## 1 消防団主要行事

行 事	主 催	場 所	備 考
消 防 出 初 式	貝 塚 市	コスモスシアター前庭	※1
文化財防火デーに伴う消防訓練	貝 塚 市	孝 恩 寺	※2
岸和田市・貝塚市山間部合同消防訓練	貝 塚 市	和 泉 葛 城 山 山 頂	
貝塚市新任団員講習会	貝塚市消防団	消 防 本 部	
貝塚市幹部団員教育訓練	貝塚市消防団	消 防 本 部	
大 阪 府 消 防 表 彰 式	大 阪 府 消 防 協 会	大 阪 市	
消防団員教育訓練「基礎教育 A」	大 阪 府 消 防 協 会	大 阪 府 立 消 防 学 校	
消防団員教育訓練「基礎教育 B」	大 阪 府 消 防 協 会	大 阪 府 立 消 防 学 校	
消防団員教育訓練「幹部科」	大 阪 府 消 防 協 会	大 阪 府 立 消 防 学 校	
消防団員特別教育訓練「機関科」	大 阪 府 消 防 協 会	大 阪 府 立 消 防 学 校	
大阪府消防協会泉南地区支部総合訓練	大阪府消防協会泉南地区支部	岬町多奈川地区多目的公園	
大阪府消防大会及び消防操法訓練大会	大阪府・大阪府消防協会	大 阪 府 立 消 防 学 校	
消 防 署 ・ 消 防 団 合 同 消 防 訓 練	貝 塚 市	二色の浜公園海浜緑地	
歳 末 火 災 特 別 警 戒	貝 塚 市	市 内 全 域	

※1 能登半島地震のため中止      ※2 雨天のため中止

## 2 消防団員階級別定員と実員配置

(令和6年12月31日現在)

階級別 人員	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
消防団本部	1	3			1			5
第 1 分 団			1	1	1	3	15	21
第 2 分 団			1	1	1	3	14	20
第 3 分 団			1	1	1	3	16	22
第 4 分 団			1	1	1	3	16	22
第 5 分 団			1	1	1	3	20	26
第 6 分 団			1	1	1	5	25	33
第 7 分 団			1	1	1	3	12	18
第 8 分 団			1	1	1	3	18	24
第 9 分 団			1	1	1	3	12	18
計	1	3	9	9	10	29	148	209
定員	1	4	9	9	10	30	187	250

### 3 消防団員の勤続年数

(令和6年12月31日現在)

年数 分団名	5年 未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年 以上	平均
消防団本部	2						3	2.4
第1分団	2		2	4	6	1	6	22.9
第2分団	1	7	3	3	3	2	1	14.8
第3分団	1	8	2	2	6	3		14.8
第4分団	3	1	9	4	5			13.6
第5分団	7	8	4	5	2			9.5
第6分団	2	6	6	10	6	3		15.2
第7分団	4	1	1	5	2	3	2	16.2
第8分団	2	6	6	3	7			13.7
第9分団	2	4	2	3	4	3		15.9
計	26	41	35	39	41	15	12	16

### 4 消防団員の年齢状況

(令和6年12月31日現在)

年齢 分団名	18歳～ 20歳	21歳～ 30歳	31歳～ 40歳	41歳～ 50歳	51歳～ 60歳	61歳 以上	平均
消防団本部					1	4	64.2
第1分団		1		5	7	8	56.2
第2分団		6	3	5	6		40.3
第3分団			7	8	7		45.1
第4分団			6	12	4		44.2
第5分団		2	9	14	3		42.9
第6分団			7	18	8		46.4
第7分団			3	7	6		45.0
第8分団			2	12	10		48.1
第9分団			3	10	3	2	49.3
計		9	40	91	55	14	48.2

## 5 消防団機械器具配置状況

分 団 名	車 両 番 号 小型ポンプ品番	社 名	年 式	型式及びポンプ性能
第1分団	和 泉 802 た 1000 P 3 8 3 型	日 野 ラビットポンプ	H 2 4 H 2 4	CD-1 C-1級
第2分団	和 泉 800 ね 2000 P 3 8 2 型	ミ ツ ビ シ ラビットポンプ	H 1 9 H 1 9	CD-1 C-1級
第3分団	和 泉 800 と 3000 V 2 0 E 型	ミ ツ ビ シ トーハツポンプ	H 1 8 H 1 8	CD-1 C-1級
第4分団	和 泉 830 す 4000 P 3 8 3 型	日 野 ラビットポンプ	H 2 5 H 2 5	CD-1 C-1級
第5分団	和 泉 800 に 5000 P 3 8 2 型	日 野 ラビットポンプ	H 2 1 H 2 1	CD-1 C-1級
第6分団	和 泉 830 と 6000 P 3 8 2 型	ミ ツ ビ シ ラビットポンプ	H 1 9 H 1 9	CD-1 C-1級
第7分団	和 泉 800 の 7000 P 3 8 3 型	日 野 ラビットポンプ	H 2 3 H 2 3	CD-1 C-1級
第8分団	和 泉 802 と 8000 F T 3 0 0 型	日 野 シバウラ	H 2 9 H 2 9	CD-1 C-1級
第9分団	和 泉 830 な 9000 F T 3 0 0 型	ト ヨ タ シバウラ	R 2 R 2	CD-1 C-1級

## 6 消防団員報酬

区 分	年 額 報 酬
団 長	106,000円
副 団 長	74,000円
分 団 長	59,000円
副 分 団 長	45,500円
部 長	38,000円
班 長	37,000円
団 員	36,500円

区 分	出 動 報 酬
災 害 出 動	1日につき 8,000円
訓練・警戒等出動	1回につき 2,700円

## 7 消防団員出動状況

種 別	延 人 員
火災・その他災害出動	148人
訓練参加(定例・その他)	3,091人
小型ポンプ操法訓練(5月～9月)	630人
計	3,869人

## 8 表彰

消 防 庁 長 官 表 彰	永 年 勤 続 功 労 章	0
日 本 消 防 協 会 長 表 彰	勤 続 章	0
	精 績 章	0
	功 績 章	1
大 阪 府 知 事 表 彰	消 防 勤 続 功 労 章	0
	消 防 功 労 章	4
	銀 杯	4
大 阪 府 消 防 協 会 長 表 彰	永 年 勤 続 章	6
	勤 続 章	6
	勤 功 章	4
	精 勤 章	4
	木 杯	4
大 阪 府 消 防 協 会 泉 南 地 区 支 部 長 表 彰	消 防 功 労 者 表 彰	1
貝 塚 市 消 防 団 長 表 彰	団 長 記 章	4
	精 勤 章	19
	感 謝 状	11